資　料

日本教育工学会論文誌 36(2), 159-166, 2012

自我状態及びエゴグラムと情報モラルに対する意識との関係†

宮川洋一*1
岩手大学教育学部*1

本研究では，情報モラルの具体的な内容について，①他者への影響を考え，人権，知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと（内容①），②危険回避など情報を正しく安全に利用できること（内容②），③コンピュータなどの情報機器の使用による健康とのかかわりを理解すること（内容③）とした上で，これらに対する学習者の意識（情報モラルに対する意識）と自我状態及びエゴクラムとの関係を検討した．その結果，エゴクラムを構成する五つの自我状態の内，CP（批判的な親の心），NP（保護的な親の心）が，情報モラルに対する意識に対して促進的に，FC（自由な子供の心）が抑制的に機能することが示唆された．また，内容①に対する意識については，CP，NP ピーク型のエゴクラムの学生が FC ピーク型に対して，内容③に対する意識については，CP ピーク型のエゴクラムの学生が FC ピーク型に対して，いずれも有意に得点が高いことが示された．

キーワード：情報モラル，エゴクラム，自我状態，情報教育，パーソナリティ

1. はじめに

本研究の目的は，学習者の自我状態及びエゴグラムと，情報モラルに対する意識との関係を検討することである．

インターネットをはじめとする情報通信環境の普及による新たな教育問題が顕在化する中，平成20年1月中央教育審議会でとりまとめられた「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（文部科学省 2008）では，小・中・高等学校において，情報モラルの指導を充実させることが示されている．その具体的な対応として，中学校を例に取れば，同年3月に告示された中学校学習指導要領の解説「道徳編」（文部科学省 2008）において，改善の具体的事項の一つとして，「社会における情報化が急速に進展する中，インターネットの『掲示板』への書き込みによる誹謗中傷やいじめといった情報化の影の部分に対応するため，発達の段階に応じて情報モラルを取り扱う．」ことがあげられている．また，同中学校学習指導要領の解説「特別活動編」（文部科学省 2008）では，学級活動において，「情報化社会におけるモラルなどの題材を設定し，道徳の時間との関連も図りながら展開していくことが重要である．」と示されている．特に，学級活動の時間は，生徒指導が中心的に行われる場であることから，学習者の人格を尊重し，個性の伸長を図りながら，社会的資質や行動力を高めるという生徒指導の機能と，これに密接に関連する教育相談の機能を十分発揮させた指導（以下，これら合わせてカウンセリング的アプローチとする）を展開する必要がある．言い換えれば，社会的資質や行動力を効果的に高めるためには，まず，生徒の人格や個性を事前に把握しておくことが必要であることを意味する．

このように，高等学校までの学校教育における情報モラルの教育は，これまでも中心的に行われてきた情報の科学的な理解を足場とした知的アプローチ（主に教科教育）に加え，道徳教育という徳育的アプローチやカウンセリング的アプローチというように，多面的なアプローチを通して，情報モラルに対するよりよい意識の醸成を図ることが求められている．

ここで，情報モラルとは，小・中学校の学習指導要領の解説「総則編」（文部科学省 2008）によれば，「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」であり，その具体的な内容として，①他者への影

2012年1月16日受理
† Yoichi MIYAGAWA*1 : Relationship between the Egogram, Composed of Five Ego States, and Consciousness Regarding Information Morality
*1 Faculty of Education, Iwate University, 3-18-33, Ueda, Morioka, Iwate, 020-8550 Japan

表1　五つの自我状態の特色（新里ほか 2007）

自我状態	特　色
CP 批判的な親の心	信念に従って行動する父親のような心です．自分の価値や考え方をゆずろうとせず，他人を批判したり非難したりします．CP が強すぎると尊大で支配的な態度，命令的な口調などが目立つようになります．
NP 保護的な親の心	思いやりをもって世話をするやさしい母親のような親の心です．親切・いたわり・寛容な態度と関連しており，親身になって人のめんどうをみる保護的なやさしさが特徴です．NP が強すぎると，過保護やおせっかいになりやすいので気をつけてください．
A 大人の心	事実に基づいてものごとを判断しようとする合理的な大人の心です．A はコンピュータにたとえられ，データを集めて論理的に処理していく働きをします．A が強すぎると打算的で冷たく情緒に乏しい人間味に欠けた人になるおそれがあります．
FC 自由な子供の心	自分の欲求のままにふるまい，自然の感情をそのまま表す何ものにも縛られない自由な子供の心です．明るくて無邪気ですが，わがままな面があり，自分勝手で依存的な面をもち，他人への配慮に欠けるところがあります．
AC 順応した子供の心	自分の本当の気持ちを抑えて相手の期待にそおうと努める順応した子供の心です．AC は自分を抑えて社会規範に従って行動する傾向をもちますが，それが強くなりすぎると，イヤなことをイヤと言えずにストレスを心の中に溜めこむことになってしまいます．

響を考え，人権，知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと，②危険回避など情報を正しく安全に利用できること，③コンピュータなどの情報機器の使用による健康とのかかわりを理解すること（以下，これらをそれぞれ「内容①」，「内容②」，「内容③」と表記する）などを指している．このことから，情報モラルは，情報社会における社会的資質や行動力ととらえることができる．よって，特に先に述べたカウンセリング的アプローチによる情報モラルに対する教育では，生徒の人格や個性の把握が肝要となる．

一般的に，人格や個性はパーソナリティと同義ととらえられ（辰野ほか 1986），その概念の特徴として，若林（2009）は，①「パーソナリティは個人の行動を決定（ないしは規定する）要因である」，②「個人ごとに独自のパーソナリティをもっている」，③「個人内要因としてパーソナリティ」の３点をあげている．この概念の特徴，特に①に基づけば，パーソナリティが，情報モラルに対する意識の醸成要因の一つになっているのではないかと考えられる．そして，この関係が示唆されるのであれば，パーソナリティによって，情報モラルに対する意識を醸成しやすい人と，醸成しにくい人がいるということになり，情報モラルに対する教育を実施する際には，パーソナリティに応じた配慮が必要になるという，指導者にとって有益な情報が得られることになると考える．そこで，本研究では，パーソナリティと情報モラルに対する意識との関係を検討する．

この検討を行うに当たり，本研究では，パーソナリティの具体的な指標として，エゴグラムを取り上げる．エゴグラムとは，「すべての観察可能な行動（言語，声音，表情，ジェスチュア，姿勢，いわゆる行動）を五つの自我状態（CP：批判的な親の心，NP：保護的な親の心，A：大人の心，FC：自由な子供の心，AC：順応した子供の心）に分類し，それらの発生頻度を棒グラフにして表したもので，個人のパーソナリティの鳥瞰図のこと」（新里ほか 2007）をいう．ここでいう五つの自我状態の特色を**表1**に示す．また，桂ほか（2007）によれば，自我状態とは，「思考および感情，さらにはそれらに関連した一様の行動様式を統合した一つのシステム（組織）」と定義され，すべての人に備わっているとされている．

現在では，訓練を受けていない人でもエゴグラムを活用できるようにするため，いくつかの質問紙が開発・公表されている．このため，教育現場においても，例えば田中（2000）のように，学級活動の時間を中心としてエゴグラムを活用している指導事例が見られる．

なお，エゴグラムは一般の検査と異なり，心のエネルギーの分配であり，変化する可能性が大きく，その方法もわかっているといわれ（新里ほか 2007），単に学習者のパーソナリティの把握にとどまらず，要因側（パーソナリティ側）から情報モラルに対する教育を行える可能性を秘めている．このようなエゴグラムの特徴は，全教育活動（全教員）で推進するという情報

モラルの教育的特性や，根深い様々な問題を抱えている情報モラルの問題に対して，指導の方向性が広がるという意味において，教育的価値が高いと考えられる．

近年，情報モラルの教育がクローズアップされる中，エゴクラムとの関係については，いくつかの実践，研究が成されている．例えば，ニフティ株式会社では，情報モラルに関する教育について，「知恵を磨く領域」と「心を磨く領域」の両面から教育支援活動を展開しようとしており，特に，「心を磨く領域」では，自分の性格の特徴と行動パターンを分析することで，自己理解・他者理解の意識を高め，感情を自分で制御できるようになることを支援するエゴグラムの考え方に基づいた Web 教材「動物エゴクラム」を提供している（http://www.nifty.co.jp/csr/edu/egogram.html）．また，日野（2009）は，中学生を対象として，インターネット，携帯電話，電子ゲームへの依存傾向とエゴグラムとの関係を検討し，例えば，電子ゲームの依存傾向は，CP 低位，NP 低位タイプに多いことなどを指摘している．しかしながら，これまで，学習者の自我状態及びエゴクラムと，情報モラルに対する意識との関係を具体的に検討した研究は，筆者の知る限り見あたらない．

これらを踏まえ本研究では，学習者の自我状態及びエゴグラムと，情報モラルに対する意識（内容①～③に対する意識）との関係を具体的に検討することとした．

2. 研 究 方 法

2.1. 調査対象者

大学生１年生男子133名，女子146名，計279名に対して調査を2010年４月及び2011年４月に実施し，記入に不備が認められる３名を除いた男子131名，女子145名，計276名を分析対象とした．

ここで，調査対象者を大学生（１年生）としたのは，本調査を大学入学直後の年度初めの段階で実施することにより，義務及び高等学校における情報モラル教育を終えた学習者の実態を調査することが可能であると考えたからである．

2.2. 質問紙の準備

2.2.1. エゴクラム用質問紙

いくつかの種類があるエゴグラム用質問紙のうち，本研究では，岩井ほか（1977）が作成した質問紙「エゴクラム」を使用した．ここで，本質問紙を使用した理由は，①書籍，論文等で広く公開されていること，②新里ほか（2007）が「このエゴグラムをよく利用します．その理由は，作成が簡単で整理しやすいし，その場ですぐ判定できるという便利さがあるからです．このエゴグラムのすぐれた特徴でもあります．」と述べていること，③岩井ほか（1977）が「エゴクラムの変移は，交流分析のみならず，他の心身医学的療法においても，治療効果とほぼ一致して認められた．」と述べていることから，①・②より利便性が認められ，②・③によりエゴグラムに関する複数の研究者による臨床的応用の実績が認められることから，ある程度の信頼性・妥当性が担保されているのでないかと考えたからである．

本質問紙は，五つの自我状態を把握するための質問が各10項目，計50項目（**表２**）から構成され，質問に対する回答方法については，「はい（２点），どちらでもない（１点），いいえ（０点）」の３件法となっており，できるだけ「はい」か「いいえ」で答えるように指示されている．なお，本質問紙は，CP にあたる項目は FP，NP にあたる項目は MP となっているが，同義であることから（新里ほか 2007），**表２**では，CP（FP），NP（MP）と表記している．

2.2.2. 情報モラルに対する意識を把握する質問紙

情報モラルに対する意識を把握する質問紙には，宮川・森山（2011）が作成した「情報モラルに対する意識尺度」の項目を使用した．本尺度は，６因子（「F1：ICT 活用における危険回避に対する意識」，「F2：個人情報保護に対する意識」，「F3：情報機器使用における健康維持に対する意識」，「F4：情報社会における犯罪防止に対する意識」，「F5：ソフトウェアの不正コピーに対する意識」因子，「F6：ICT 活用における著作権に対する意識」），20項目で構成され，内容①に対する因子として下位尺度を F2・F5・F6，内容②に対する因子として下位尺度を F1・F4，内容③に対する因子として下位尺度を F3とする構造になっている（以下，それぞれを「内容①因子」，「内容②因子」，「内容③因子」，これらをまとめて「情報モラルに対する意識因子」と表記する）．なお，質問に対する回答方法については，「とてもそう思う（５点）～まったくそう思わない（１点）」の５件法となっている．

2.3. 分析方法

まず，基本的な分析として，自我状態全体及び各自我状態と情報モラルに対する意識との関係について，男女別の比較を行う．その上で，仮説的因果モデルを構築して，各自我状態が，情報モラルに対する意識に与える影響を検討する．これを分析１とする．

表2　岩井ほか（1977）が作成した質問紙「エゴグラム」の質問項目

CP (FP)	人の言葉をさえぎって，自分の考えを述べることがありますか 他人をきびしく批判する方ですか 待合せ時間を厳守しますか 理想を持って，その実現に努力しますか 社会の規則，倫理，道徳などを重視しますか 責任感を強く人に要求しますか 小さな不正でも，うやむやにしない方ですか 子供や部下をきびしく教育しますか 権利を主張する前に義務を果たしますか 「……すべきである」「……ねばならない」という言い方をよくしますか
NP (MP)	他人に対して思いやりの気持ちが強い方ですか 義理と人情を重視しますか 相手の長所によく気が付く方ですか 他人から頼まれたらイヤとは言えない方ですか 子供や他人の世話をするのが好きですか 融通がきく方ですか 子供や部下の失敗に寛大ですか 相手の話に耳を傾け，共感する方ですか 料理，洗濯，掃除など好きな方ですか 社会奉仕的な仕事に参加することが好きですか
A	自分の損得を考えて行動する方ですか 会話で感情的になることは少ないですか 物事を分析的によく考えてから決めますか 他人の意見は，賛否両論を聞き，参考にしますか 何事も事実に基づいて判断しますか 情緒的というよりむしろ理論的な方ですか 物事の決断を苦労せずに，すばやくできますか 能率的にテキパキと仕事を片づけていく方ですか 先（将来）のことを冷静に予測して行動しますか 身体の調子の悪い時は，自重して無理を避けますか
FC	自分をわがままだと思いますか 好奇心が強い方ですか 娯楽，食べ物など満足するまで求めますか 言いたいことを遠慮なく言ってしまう方ですか 欲しいものは，手に入れないと気がすまない方ですか “わあ”“すごい”“へえ～”など感嘆詞をよく使いますか 直観で判断する方ですか 興にのると度をこし，はめをはずしてしまいますか 怒りっぽいほうですか 涙もろいほうですか
AC	思っていることを口に出せない性質ですか 人から気に入られたいと思いますか 遠慮がちで消極的な方ですか 自分の考えをとおすより妥協することが多いですか 他人の顔色や，言うことが気にかかりますか つらい時には，我慢してしまう方ですか 他人の期待にそうよう過剰な努力をしますか 自分の感情を抑えてしまうほうですか 劣等感が強い方ですか 現在「自分らしい自分」「本当の自分」から離れているように思えますか

仮説的因果モデルの構築にあたっては，まず，若林（2009）が述べているパーソナリティの概念の特徴の一つ「個人の行動を決定（ないしは規定する）要因である」という知見から，エゴグラムを構成している五つ自我状態（各エネルギー）は，情報モラルに対する意識へ影響を与えるという因果関係が想定できる．

CP，NP は合わせて親の自我状態（P）ともいわれ，「『よい』とか『悪い』とかいう価値判断，道徳，倫理観などに基づく言葉はＰが出る表現」（桂ほか 2007）とされている．情報モラルに対する意識は，価値判断，道徳，倫理と深く関わっていることから，これら二つのエネルギーは正の影響を与えるのではないかと考えられる．特に，CP は「良心や理想とも深く関係していて，子供たちが，生きていくための，さまざまな規則を教え，厳しい面を示す」（中村・杉田 2007）とされるため，**表１**に示した特徴と合わせて，NP より CP のエネルギーの方が，相対的に強い正の影響を与えるのではないかと考えられる．

FC，AC は合わせて子供の自我状態（C）ともいわれ，「子供としての，ありのままの姿を保っており，主として感情や衝動から成り立っている」（桂ほか 2007）とされている．FC は「感情的，本能的，自己中心的，積極性であり，好奇心や創造力の源でもあります．現実を考えることなく，即座に快感を求め，苦痛を避けようとします．（中略）このエネルギーが強すぎると，自分にブレーキがかけられず，軽率な行動をとることがあります．」（中村・杉田 2007）といわれている．よって，FC のエネルギーは，情報モラルに対する意識に対して，負の影響を与えるのではないかと考えられる．また，AC は「AC のエネルギーが高いと，しばしば屈折した攻撃性が隠されています．」（中村・杉田 2007）といわれるため，FC と同様に負の影響を与えるのではないかと考えられる．ただし，**表１**に示したように，本当の自分を抑えた上で，社会規範に従って行動する傾向がみられると示されていることから，FC よりは相対的に弱い負の影響なのではないかと考えられる．

A は「過去の知識や経験を参考にして，評価，修正し，推測しながら，行動に移すなど，冷静な計算に基づいて機能します．」（中村・杉田 2007）といわれる．**表１**の特徴と合わせ，冷静によりよい行為をめざそうとするエネルギーととらえれば，正の影響を与える可能性がある．その一方で，ＰやＣとは異なり「感情に支配されない，冷静な部分」（中村・杉田 2007）ともいわれることから，両者とは異なる，つまり正・負の影響ともみられない可能性もある．

以上の仮説に基づき，五つの自我状態すべてから情報モラルに対する意識因子へパスを引いた．なお，情報モラルに対する意識側については，宮川・森山（2011）の先行研究に倣い，内容①～内容③因子の上位に，「情報モラル因子」を設定した．

次に，エゴグラムを解釈していく上で最も基本となる，自我状態の最も高いカ所に着目した五つのタイプ分け（「ピークタイプ」と表記する）を行い，多重比較に基づきエゴグラムのタイプと情報モラルに対する意識との関係を検討する．これを分析２とする．

3. 結果と考察

3.1. 分析 1

3.1.1. 調査対象者における自我状態の男女別比較

エゴグラム用の質問紙50項目全体の合計（満点100点）は，自我のエネルギー全体を表現しているとされ，自己表現という観点からすると，一般的に，自我のエネルギー全体は高い方が望ましいとされている（新里ほか 2007）．はじめに，自我状態全体における性差の検討をしたところ，男子（*Mean*=60.99, *S.D.*=8.73），女子（*Mean*=60.95, *S.D.*=8.73）となり，両者間の有意差は認められなかった．

表３は，男女別における五つの自我状態の平均値と標準偏差を示したものである．五つの自我状態の内，NP の平均値が他の自我状態における平均値よりも高い傾向が示された．男女間では，A において有意差が認められ，男子が女子よりも高い水準となった（$F_{(1,274)}$=5.19, p<.05）．また，FC においても有意差が

表３　男女別における各自我状態の平均と標準偏差

自我状態	CP		NP		A		FC		AC	
性　別	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
Mean	10.96	10.86	15.09	15.34	11.24	10.22	10.89	12.27	12.80	12.26
S.D.	3.42	3.16	3.27	3.63	3.92	3.55	4.18	3.76	4.67	4.24
判定	*n.s.*		*n.s.*		$F_{(1,274)}$=5.19, p<.05		$F_{(1,274)}$=8.28, p<.01		*n.s.*	

認められたが，A とは逆に，女子が男子よりも高い水準となった（$F_{(1,274)}$=8.28, p<.01）.

このことから，今回調査した対象者においては，自我状態全体については，性差が認められないものの，男子が女子よりも事実に基づいてものごとを判断しようとする合理的な面がやや強い傾向にある一方，女子の方が自分の欲求のままにふるまい，自然感情をそのまま表す面がやや強い特性をもっていることが示唆された.

3.1.2. 各自我状態が，情報モラルに対する意識に与える影響

2.3.で説明した仮説的因果モデルを用いた共分散構造分析の結果を**図1**に示す．モデルの適合度を示す各指標は，*GFI*=.983 *AGFI*=.940 *CFI*=.966 *RMSEA*=.058となり，いずれも十分な水準であった.

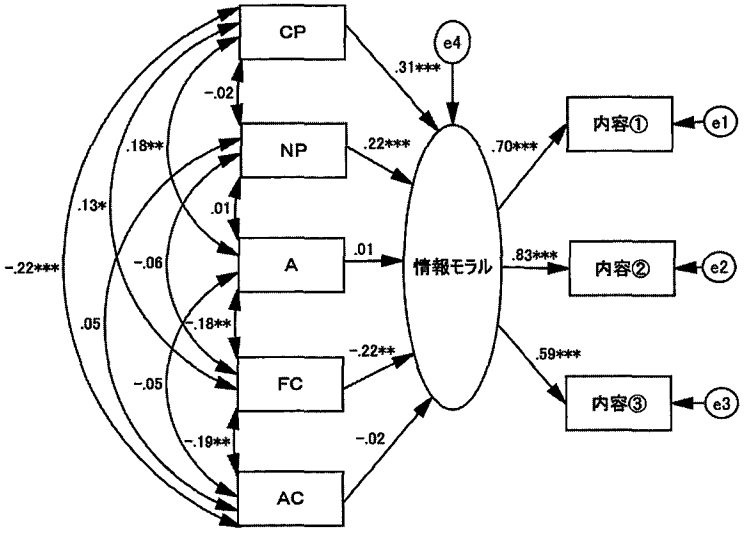
各自我状態から情報モラルに対するパス係数に着目すると，CP から情報モラル因子では，β=.31, p<.001, NP から情報モラル因子では，β=.22, p<.001となり，いずれも正の影響力が示唆された．逆に FC から情報モラル因子では，β=−.22, p<.01となり，負の影響力が示唆された．A，AC から情報モラル因子へのパス係数は有意とはならなかった．なお，多母集団の同時分析（性別）の結果，各自我状態から情報モラルに対するパス係数には，有意差は認められなかった．このことから，五つの自我状態が情報モラルに対する意識に与える影響については，男女間に差異はなく，CP，NP のエネルギーが促進的に，FC のエネルギーが抑制的に機能することが示唆された.

3.2. 分析 2

分析2では，エゴグラムと情報モラルに対する意識との関係について検討する．具体的には，エゴグラムを考案した DUSAY（2000）が，エゴグラムの実例を解説する際に行っている最も基本的なタイプ分けに倣い，各自我状態の一番高いところに着目し，五つのタイプ分けを行った上で，情報モラルに対する意識との関係を検討する.

まず，タイプ分けについては，調査対象者276名のエゴグラムを作成し，一番高い得点の自我状態を判定し，CP ピークタイプ，NP ピークタイプ，A ピークタイプ，FC ピークタイプ，AC ピークタイプに分類した．この際，一番高い得点が数タイプにわたり同点となる調査対象者については，分析対象から除いた．この結果，276名の調査対象者に対して，タイプ分け後の度数総数は228となり，それぞれの度数は，CP=16，NP=108，A=16，FC=35，AC=53となった.

表4に，エゴグラムのタイプ別における内容①〜内容③因子の下位尺度得点の平均と標準偏差を示す．分散分析の結果，内容①因子と内容③因子については，条件の主効果が有意であった（内容①因子：$F_{(4,223)}$=4.34, p<.01，内容③因子：$F_{(4,223)}$=2.82, p<.05）．Levene の等分散性検定の結果，内容①因子及び内容③因子いずれも等分散性を仮定することができたため，それぞれ



GFI=.983 *AGFI*=.940 *CFI*=.966 *RMSEA*=.058 *p<.05 **p<.01 ***p<.001

図1 自我状態が情報モラルに対する意識に与える影響

表4　タイプ別における内容①～内容③因子下位尺度得点の平均と標準偏差

		内容①		内容②		内容③	
	N	*Mean*	*S.D.*	*Mean*	*S.D.*	*Mean*	*S.D.*
CP	16	4.33	0.54	4.15	0.58	4.31	0.57
NP	108	4.22	0.52	4.04	0.60	4.00	0.87
A	16	3.98	0.51	3.84	0.74	3.93	0.83
FC	35	3.84	0.53	3.71	0.69	3.54	0.91
AC	53	4.11	0.63	3.83	0.68	3.77	0.99

Hochberg GT2法による多重比較を行った．その結果，内容①因子では，CP ピークタイプ，NP ピークタイプが，内容③因子では，CP ピークタイプが，それぞれ FC ピークタイプよりも，有意に高い結果となった（内容①：MSe=.30 p<.05，内容③：MSe=.80 p<.05）．一方，内容②については，多重比較において有意差は認められなかった．

したがって，他者への影響を考え，人権，知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことに対する意識では，FC ピークタイプよりも，CP ピークタイプ，NP ピークタイプの学習者が，同様に，コンピュータなどの情報機器の使用による健康とのかかわりに対する意識では，CP ピークタイプの学習者が優れていることが示唆された．また，危険回避など情報を正しく安全に利用できることに対する意識については，今回エゴグラムのタイプ別による有意差は認められなかったが，CP ピークタイプ，NP ピークタイプに対して，FC ピークタイプの平均値が低い傾向性は他の二つと類似している．分析１の結果と合わせ，この点については，今後さらに検討していくことが必要であると考える．

以上のことから，FC ピークタイプの学習者は，CP ピークタイプ，NP ピークタイプの学習に対して，情報モラルに対する意識の醸成がしにくいことが指摘でき，指導を実施する際には，FC ピークタイプの学習者に特に配慮する必要がある．

例えば，教科担任制の中学校・高等学校において，学級担任がエゴクラムを活用して，生徒のパーソナリティを把握して生徒指導に生かすと同時に，知的アプローチを主として情報モラルの教育を行う教科担任がこのデータを事前に共有することにより，特に，情報モラルに対する意識の醸成が相対的にしにくい FC ピークタイプの生徒を把握した上で，指導の際に配慮していくことが考えられる．

4.　まとめと今後の課題

本研究では，学習者の自我状態及びエゴグラムと情報モラルに対する意識との関係について検討した．本研究で実施した調査の条件下で得られた成果，知見等は，以下の通りである．

(1) 五つの自我状態が情報モラルに対する意識に与える影響については，男女間に差異はなく，CP，NP のエネルギーが促進的に，FC のエネルギーが抑制的に機能することが示された．

(2) エゴグラムのタイプ別（５タイプ）でみた場合，内容①に対する意識では，FC ピークタイプよりも，CP ピークタイプ，NP ピークタイプの学習者が，同様に内容③では，CP ピークタイプの学習者が優れていることが示され，FC ピークタイプの学習者は，CP ピークタイプ，NP ピークタイプの学習者に対して，情報モラルに対する意識の醸成がしにくいことが示された．

しかしながら，分析１においては，当初の理論的予測に対して AC のエネルギーの影響（負）が示されなかったこと，また，分析２においては，内容②について有意差が示されなかったことについては，今後さらに検討していくことが必要であると考えている．

その上で，本研究では，調査対象者を大学生（１年生）としたが，この傾向が，とりわけ情報モラルに対する意識を醸成する途上の義務教育段階の児童生徒に合致しているかは不明である．今後，調査対象を広げて，分析していく必要がある．そして，得られている知見を基に授業を構築し，学習者の変容を把握して，より効果的な指導のあり方を検討していく必要があろう．また，本研究では，エゴグラムのタイプ分けを五つとしたが，東京大学医学部心療内科 TEG 研究（2006）のように，エゴクラムのタイプ分けをさらに細かくした上で，パーソナリティの分析をしているものもある．今後，大規模な調査活動を行い，これらの詳細タイプと情報モラルに対する意識との関係を把握していくこ

とも必要であると考える．これらについては，いずれも今後の課題としたい．

謝　　辞

調査に協力をしていただいた学生の皆さんに厚く御礼を申し上げます．

参 考 文 献

DUSAY, J.M.［著］，池見酉次郎［監修］，新里里春［訳］(2000) エゴグラム［新装版］．株式会社創元社，大阪，pp.54-77

日野秀俊 (2009) 中学生におけるインターネット・携帯電話・電子ゲームへの依存傾向とエゴグラムとの関連性．日本産業技術教育学会第52回全国大会講演要旨集：34

岩井浩一，石川中，森田百合子，菊地長徳 (1977) 質問紙エゴクラムの臨床的応用．交流分析研究，2(1)：3-13

株式会社ニフティ (2009) 動物エゴグラム http://www.nifty.co.jp/csr/edu/egogram.html (参照日 2011.12.01)

桂載作，杉田峰康，白井幸子 (2007) 交流分析入門 (第２版)．株式会社チーム医療，東京，pp.8-12

宮川洋一，森山潤 (2011) 道徳的規範意識と情報モラルに対する意識との関係．日本教育工学会論文誌，35(1)：73-82

文部科学省 (2008) 小学校学習指導要領解説 総則編．株式会社東洋館出版社，東京

文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説 総則編．株式会社ぎょうせい，東京

文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説 道徳編．日本文教出版株式会社，大阪

文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説 特別活動編．株式会社ぎょうせい，東京

文部科学省 (2008) 幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について (答申) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/information/1290361.htm (参照日 2011.12.01)

中村和子，杉田峰康 (2007) わかりやすい交流分析 (第２版)．株式会社チーム医療，東京，pp.3-10

新里里春，水野正憲，桂載作，杉田峰康 (2007) 交流分析とエゴグラム(第２版)．株式会社チーム医療，東京

田中順子 (2000) 知らない自分が見えてくる・エゴグラム活用の試み http://www.hyogo-c.ed.jp/~kokoro/H11/lesson2/3/3-2.html (参照日 2011.12.01)

辰野千寿，高野清純，加藤隆勝，福沢周亮［編著］(1986) 多項目教育心理学事典．教育出版株式会社，東京

東京大学医学部心療内科 TEG 研究会編 (2006) 新版 TEGⅡ解説とエゴグラム・パターン．株式会社金子書房，東京

若林明雄 (2009) パーソナリティとは何か　その概念と理論．株式会社培風館，東京

Summary

In this study, the concrete elements of information morality are defined as follows: (1) an individual must take responsibility for his/her behavior in an information-intensive society, both considering his/her influence on others and respecting human rights and intellectual property; (2) an individual must be able to use information on risk aversion correctly and safely; and (3) an individual must sufficiently understand the relationship between the use of information appliances, such as computers, and human health. The relationship between the consciousness of learners regarding these elements (i.e., information morality) and the Egogram (composed of five ego states) is examined. In light of the analysis, it is suggested that of the five ego states, critical parent (CP) and nurturing parent (NP) act to build consciousness regarding information morality more quickly, while free child (FC) acts to suppress this consciousness. Regarding consciousness toward the first concrete element, a significant difference is observed between students with Egogram with CP-type or NP-type peaks and those with Egogram with FC-type peaks. Regarding consciousness toward the third concrete element, a significant difference is observed between students with Egogram with CP-type peaks and those with Egogram with FC-type peaks. Therefore, the relationship between the Egogram, composed of five ego states, and consciousness regarding information morality is revealed.

KEY WORDS: INFORMATION MORALITY, EGOGRAM, EGO STATE, INFORMATION EDUCATION, PERSONALITY

(Received January 16, 2012)